

2009年度

科目名	天然薬用資源学				
担当教員	谿 忠人				
配当	薬科3			コード	31350
開期	前期	講時	水曜日1限	単位数	2
授業テーマ	【必修】天然薬物(生薬)と生薬成分由来の医薬品の基本的知識				
目的と概要	<p>1. 天然薬用資源学は自然が生み出す薬物(生薬・天然薬物・漢方薬)の基礎知識を講義します。</p> <p>2. 内容は薬学教育モデル・コアカリキュラム(コアカリ)のC7(1-2)の到達目標に準拠します。具体的にはみなさんが「生薬の歴史や基原や含有成分の基本的知識、および生薬成分の構造、生合成、薬理作用と医薬品としての使用例などについての基本的知識を修得する」ことです。</p> <p>3. この講義はコアカリB1の「薬の発見の歴史を概説できる」「現代社会との接点(麻薬・大麻)」「日本薬局方の内容を概説できる」と関連します。</p> <p>4. また栄養情報担当者(NR: Nutritional Representative)養成講座の「薬学特論」の一部として生薬・漢方薬と食品(いわゆる健康食品)の相違を講義します。</p>				
成績評価法	試験(3回)と理解の程度を確認するためのレポートに基づいて評価します。				
テキスト	吉川雅之、松田秀秋(編)／「大観 漢方生薬学」／京都廣川書店				
参考書	日本公定書協会(編)／第十五改正日本薬局方解説書の分冊(医薬品各条:生薬等)／廣川書店 日本薬学会(編)／スタンダード薬学シリーズ3「化学系薬学Ⅲ.自然が生み出す薬物」／東京化学同人				
履修に当たっての注意・助言	<p>1. 1回目の講義には教科書に加えて「薬学部学習マニュアル」を持参してください。</p> <p>2. 教科書の該当頁を指示しながら講義します。講義中に該当頁をノートに記載し、講義終了後に教科書の記述事項と講義内容とを照合しながらまとめることを推奨します。</p> <p>3. 生薬の確認試験(呈色反応、定性試験、定量試験)の概要は講義しますが、詳細は第十五改正日本薬局方解説書の分冊(医薬品各条:生薬等)を各自で調べてください(この講義の試験やCBT試験の範囲に含まれません)。</p> <p>4. 試験の範囲やレポートの課題は薬学部棟1階掲示板で確認してください。</p>				
講義計画					
回数	授業形態	授業内容	到達目標(SBO)	コア対応番号	学習領域
1	講義	シラバスとコアカリの説明 日本薬局方	1. 天然薬用資源学を学ぶ意味を概説できる	本学独自	知識
			2. 日本薬局方における生薬の規定を概説できる	C7(1)	知識
			3. 日本薬局方で生薬の規定を調べることができる	B(1)	技能
2	講義	生薬とは何か 生薬の品質試験	1. 生薬と食品の相違を説明できる	本学独自	知識
			2. 生薬の分類基準を概説できる	本学独自	知識
			3. 日本薬局方の生薬の品質試験法を概説できる	C7(1)	知識
3	講義	生薬の歴史 生薬成分と医薬品	1. 西洋の生薬(天然薬物)の歴史を概説できる	C7(1)B(1)	知識
			2. 医薬品として使用されている生薬成分を概説できる(1)モルヒネ、コデイン	C7(1)(2)	知識
4	講義	漢方薬の歴史 漢方薬と民間薬	1. 東洋の生薬(漢方薬)の歴史を概説できる	C7(1)B(1)	知識
			2. 漢方薬と民間薬の相違を説明できる	C7(1)(3)	知識
5	講義	生薬と法律 生薬成分と医薬品	1. 麻薬など管理薬と関連する生薬を説明できる	B1、C18(1)	知識
			2. 医薬品として使用されている麻薬成分を概説できる(2)コカイン	C7(1)(2)	知識
6	講義	生薬とは何か 生薬成分の生合成	1. 生薬とは何か:講義(1-5)の総括	C7(1)	知識
			2. 生薬成分の生合成による分類法を概説できる	C7(1)	知識
7	講義	生薬成分の生合成 生薬成分と医薬品	1. ポリケチド成分と含有生薬を概説できる	C7(1)	知識

			2. 医薬品として使用されている生薬成分を概説できる(3)センノイド	C7(2)	知識
8	講義	生薬成分の生合成 生薬成分と医薬品 生薬成分の応用	1. フェニルプロパノイド成分と含有生薬を概説できる	C7(1)	知識
			2. 医薬品として使用されている生薬成分を概説できる(4)ポドフィロトキシン、ワルファリン	C7(2)	知識
9	講義	生薬成分の生合成 生薬成分と医薬品	1. テルペノイド成分と含有生薬を概説できる	C7(1)	知識
			2. 医薬品として使用されている生薬成分を概説できる(5)タキソール、グリチルリチン酸、強心配糖体	C7(2)	知識
10	講義	生薬成分の生合成 生薬成分と医薬品	1. アルカイド成分と含有生薬を概説できる	C7(1)	知識
			2. 医薬品として使用されている代表的な生薬成分を概説できる(6)スコポラミン、ベルベリン	C7(2)	知識
11	講義	生薬成分の生合成 生薬成分の応用	1. フラボノイド成分と含有生薬を概説できる	C7(1)	知識
			2. 医薬品として使用されている代表的な生薬成分を概説できる(7)アンレキサノクス、イプリフラボン	C7(2)	知識
12	講義	生薬成分の生合成 医薬品開発と天然 薬用資源	1. 生薬成分の生合成: 講義(6-11)の総括	C7(1)	知識
			2. 医薬品開発における天然薬用資源の重要性を概説できる	C7(1)(2)	知識
13	講義	医薬品開発と天然 資源	1. 微生物が生み出す医薬品を概説できる(1)	C7(2)	知識
			2. 抗生物質の化学構造や作用や用途を概説できる	C7(2)	知識
14	講義	医薬品開発と天然 資源	1. 微生物が生み出す医薬品を概説できる(2)	C7(2)	知識
			2. 抗生物質以外の有用化合物の作用や用途を概説できる	C7(2)	知識
15	講義	医薬品開発と天然 薬用資源	天然薬用資源とその医薬品開発における重要性(総括)	C7(1)(2)	知識
授業方法					
一般 目標	学習方法	場所	教員数 (補助者数)	教科書以外の教材など	時間(分)
C7(1)(2)	講義	講義室	1	配付資料	90分×15回